

「景色—もうひとつの視点 (Vista-Another Perspective)」
PLUS MINUS GALLERY (1995)

第22回企画

牛島達治展

『まっすぐなキュウリたちの午後』

会期 ■ 1997年10月13日(月) - 11月8日(土) 日・祝休館

開館時間 ■ 午前10時 - 午後7時 土曜午後5時まで

会場 ■ 中京大学アートギャラリー **C・スクエア**

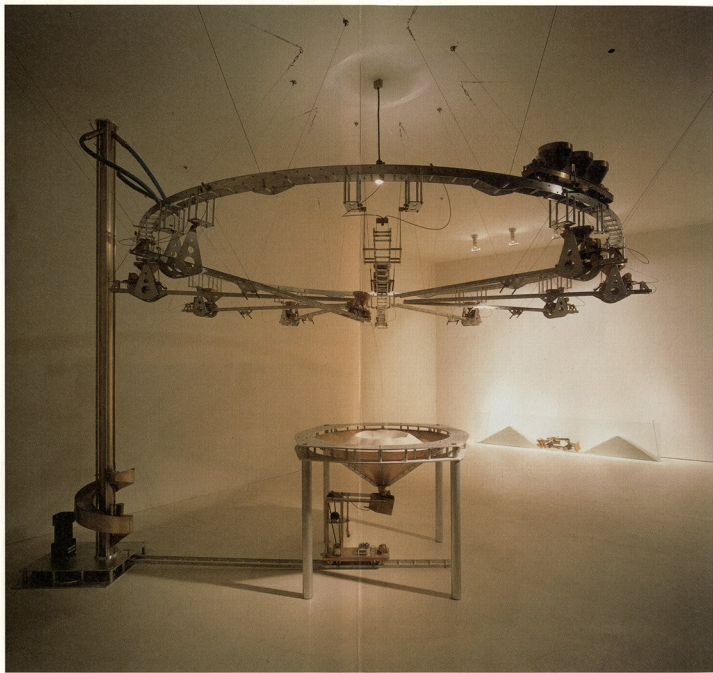
名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学センタービル1階

(地下鉄鶴舞線<やごと>下車、1番出口から本山方面へ徒歩3分)

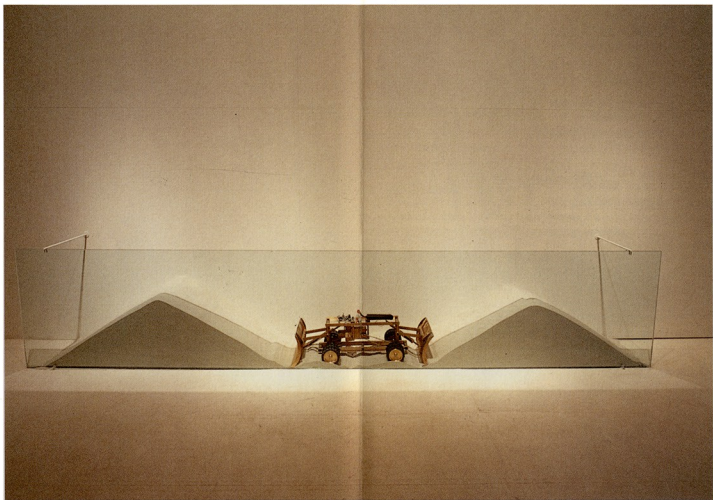
TEL : 052-835-5669 FAX : 052-835-7139



主催 ■ 中京大学アートギャラリー C・スクエア



「景色—もうひとつの視点 (Vista-Another Perspective)」 「シリアス・ブルドーザー (Serious Bulldozer)」
PLUS MINUS GALLERY (1995)



「シリアス・ブルドーザー (Serious Bulldozer)」

PLUS MINUS GALLERY (1995)

悪意の機械

中村敬治 (美術評論家)

機械は紡績機から餅つき機まですべて周期的なリズムで動いている。初期外燃機関においてシリンドー内の往復運動がフライホイールの円周運動に交換され、それがさらに種々の動きに翻案されてそれぞれの仕事を課せられはじめた時以来、機械はすべてある閉じた系の中で、かつ一定の律動に服するものとして完成されていった。その意味で機械とは、理論的には、永久に止むことのない機関でなければならない。

機械のその愚直さをこそ人間は最大に利用してきたのであるが、自分自身は、心理的にも生理的にも、決してその様な動きに耐えることができない。たとえばであるが、二人で(一人の場合もある)始めた摩擦を伴う前後(上下というべきか)運動は、決して機械的リズムを保持することはなく、股余り長時間持続することもかかわらず、ほとんど四次元の複雑系のフラクタルで甘みなくカオスへとアフオードしてゆく他ない件については大方の知るところである。

機械には、範疇的に、エクスタシーは可能であってはならないのである。だからデュシャンは不能ではないが毛なる独裁者な機械になぞらえてみせた。だがそうはしていても、ペシミズム以外の展望も開けなかった。だがそれを斜にみていたティンゲリーは、機械にもエクスタシーを経験させてやろうと考えたのであろうが、しかしMOMAの一夜はあまりに刹那的な暴発、機械は死ぬほかなかった。機械の恍惚は壊れてお終いであるが、人間は生涯何度もこわれる。

というわけで、「機械的」という形容は最大の軽蔑を、非倫理をすら意味する。当然のことながら、芸術や美術は「機械的」であるわけにはゆかない。だが、デュシャンやティンゲリーの例にみるごとく、機械であることは不可能ではない。牛島達治の作品も機械である。砂の運搬や土の団子の製造を続けたり、単調な作業を休まず継続する奴隷的装置である。だが、デュシャンたちの機械が、近代の人間の挫折を象徴する厭世的な哀しい機械であったのに対して、牛島の機械は透明で、陽気である。

機械から解放された歯車an sichや分解されたモーターの回転子そのものが感傷的で、観念的なオブジェにせよなりうるように、無意味に、だが正確に走り続けるトロロコやその走路を支えるものともいらしらすの構造物などは、それ自体意味なく人を惹きつける。牛島の機械はオリジナルのない模倣、本物のない偽物である。その矛盾が蠢動的なものかもしれない。

たとえば鉄道模型では、本物の機能をほぼ捨象あるいは縮尺して、なお本物をシュミレートしている健気さがマニアにはたまらないのであろう。ひきかえ牛島の機械には真似るべきはつきりとした宗主は存在しない。だがいかにも「本物の」模型然としたものもらしさ、かいがいしさは何であるのか。無邪気で愚鈍な表情はしているが、なにか隠しているにちがいない。ナンセンスで軽く包んだ悪意の機械、今に仕事を放り出して……………

うしじまつり 牛島達治

1958 東京生まれ
1994 A. C. C. (Asian Cultural Council) の助成によりニューヨークに滞在

〈個展〉

- 1984 已展開(神奈川県民ホールギャラリー)
1987 無用な機械たち(東京:ヒルサイド・ギャラリー)
1989 牛島達治展 中新田町宇宙広場構想(ヒルサイド・ギャラリー)
1991 牛島達治展 HOMAGE TO THE MOON(東京:アートフォーラム谷中)
1992 牛島達治展「ケハイ」の構造(ヒルサイド・ギャラリー)
1993 ニュー目黒駅(西)駅「無用な機械たち」をめぐり(シジフォスの夢)へ(東京:目黒区美術館)
1995 牛島達治展 景色—もうひとつの視点(東京:プラズマイチエギャラリー)
1997 牛島達治展「まつぎくえキョリ」たちの午後(名古屋:中京大学アートギャラリー・C・スクエア)

〈グループ展〉

- 1982 ZONE(東京:東邦生命ギャラリー)
1983 Bゼミ展(横浜市民ギャラリー)/デザインフォーラム'83(東京:銀座松屋)/テンプル・楳子・コップ展(東京:Gアートギャラリー)/ニューヨーク・アート展(東京:渋谷西武百貨店)
1985 第17回現代日本美術展(東京都美術館)/京都市美術館/現代美術の祭典'85(埼玉県立近代美術館)
1986 FROM SOUND(東京:ストライプハウス美術館)
1988 サウンドガーデン「(ストライプハウス美術館)
1989 ドロ—イング倉庫展(ヒルサイド・ギャラリー)/音のある美術展(栃木県立美術館)
1990 サウンドガーデン「(ストライプハウス美術館)/東京:ハイネッケンビル展」
1991 ドロ—イング倉庫展 PART-2(ヒルサイド・ギャラリー)/Sonic Perception 音とその知覚に関する試み(福岡市民ミュージアム)/サウンドガーデン、(ストライプハウス美術館)/「風」の造形展(東京:すみだリサーチ・ギャラリー)
1992 ドロ—イング倉庫展 PART-3(ヒルサイド・ギャラリー)/NICAF YOKOHAMA '92(パシフィック横浜) 第3回名古屋国際ビエンナーレ ARTEC '93(名古屋美術館)/KID'S ART LAND(香川県:直島コンテンポラリーアートミュージアム)



1994 甲府展 第10回記念展—キネテック・スカルプチャー—(山梨県立美術館)/NICAF YOKOHAMA '94(パシフィック横浜)/ドロ—イング展(ヒルサイド・ギャラリー)

1996 「ひかる・うごく・おとがきる」20世紀の静かならざる作品たち(和歌山県立近代美術館)/IZUMIWAKU project 1996(学校アーツ・センター) 展(東京:杉並区立中央図書館)
1997 DREAM OF EXISTENCE (Budapest:Kiscelli Museum)/表出する大地展(広島市現代美術館)/体感する美術 '97 まち・出よう—風と精霊と人の声(倉吉市立美術館)

1994 甲府展 第10回記念展—キネテック・スカルプチャー—(山梨県立美術館)/NICAF YOKOHAMA '94(パシフィック横浜)/ドロ—イング展(ヒルサイド・ギャラリー)

1996 「ひかる・うごく・おとがきる」20世紀の静かならざる作品たち(和歌山県立近代美術館)/IZUMIWAKU project 1996(学校アーツ・センター) 展(東京:杉並区立中央図書館)

1997 DREAM OF EXISTENCE (Budapest:Kiscelli Museum)/表出する大地展(広島市現代美術館)/体感する美術 '97 まち・出よう—風と精霊と人の声(倉吉市立美術館)

1994 甲府展 第10回記念展—キネテック・スカルプチャー—(山梨県立美術館)/NICAF YOKOHAMA '94(パシフィック横浜)/ドロ—イング展(ヒルサイド・ギャラリー)

1996 「ひかる・うごく・おとがきる」20世紀の静かならざる作品たち(和歌山県立近代美術館)/IZUMIWAKU project 1996(学校アーツ・センター) 展(東京:杉並区立中央図書館)

1997 DREAM OF EXISTENCE (Budapest:Kiscelli Museum)/表出する大地展(広島市現代美術館)/体感する美術 '97 まち・出よう—風と精霊と人の声(倉吉市立美術館)

1994 甲府展 第10回記念展—キネテック・スカルプチャー—(山梨県立美術館)/NICAF YOKOHAMA '94(パシフィック横浜)/ドロ—イング展(ヒルサイド・ギャラリー)

1996 「ひかる・うごく・おとがきる」20世紀の静かならざる作品たち(和歌山県立近代美術館)/IZUMIWAKU project 1996(学校アーツ・センター) 展(東京:杉並区立中央図書館)

1997 DREAM OF EXISTENCE (Budapest:Kiscelli Museum)/表出する大地展(広島市現代美術館)/体感する美術 '97 まち・出よう—風と精霊と人の声(倉吉市立美術館)

1994 甲府展 第10回記念展—キネテック・スカルプチャー—(山梨県立美術館)/NICAF YOKOHAMA '94(パシフィック横浜)/ドロ—イング展(ヒルサイド・ギャラリー)

1996 「ひかる・うごく・おとがきる」20世紀の静かならざる作品たち(和歌山県立近代美術館)/IZUMIWAKU project 1996(学校アーツ・センター) 展(東京:杉並区立中央図書館)



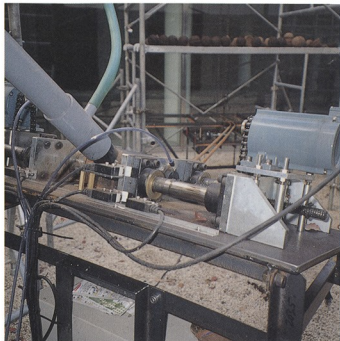
「土の為の生産プラント（部分／Production Plant for Soil）」

広島市現代美術館（1997）

撮影：大島邦夫



「土の為の生産プラント（部分／Production Plant for Soil）」
広島市現代美術館（1997）



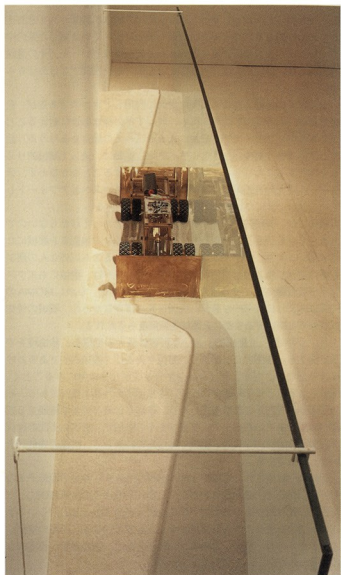
「土の為の生産プラント（部分／Production Plant for Soil）」
広島市現代美術館（1997）



「土の為の生産プラント（部分／Production Plant for Soil）」
広島市現代美術館（1997）



「土の為の生産プラント（部分／Production Plant for Soil）」
広島市現代美術館（1997）



「シリアス・ブルドーザー (Serious Bulldozer)」
PLUS MINUS GALLERY (1995)